



学校だより

山鳩



【3/22:「卒業証書授与式」が行われ、多くの皆さんに見守られ卒業生が立派に巣立っていきました:写真左】

【三小では毎年多くの感動的な行事が行われその一つひとつが記念写真として校長室前に掲示してある:写真右】

三条の教育の原点、ここにあり 校長 小林 修

三小教育の集大成である「春風式第2部『歴史に光輝あり』」で、子どもたちの大感動の発表が行われ、三条小学校の教育活動を終わりました。皆さん、大きな声援をありがとうございました。

さて2年前、校区内の商店のご主人から私は次の話を伺いました。「先生、うちは今、倅たち(若夫婦)は家を出ているけど、孫(年中児)が学校に上がる時、一緒に暮らすんで。そんなときは、もう先生、いねろっけど、孫が三小行くの、家族で楽しみにしているんで」と、嬉しさいっぱい表情で教えてくださいました。

新一年生の裏館小学校に入学する児童名簿に、この家の子どもの名はありませんでした。耐震化を理由に閉校を決められ、後付けのように児童数の減少が言われ、今日の春風式を以って三条小学校は閉校です。閉校により、家族の絆や家族の嬉しさが奪われてしまうようで寂しい気持ちになります…。

私は、今日 500 人も皆さんから参加を頂いた「春風式」で、次のような話をさせて頂きました。

この日がやってきてしまいました。切ないです。切ないという私個人の感情で語れることではなく地域・保護者の皆さん、同窓生や同人の皆さん、子どもたち。皆さんの大切な学校がこのようなことになり誠に申し訳ありません…。三条小学校は、明治5年11月4日の開校から、今日まで輝かしい教育活動を推進して参りました。144年の歴史は重いです。ここに勤務した教職員数は1500名を優に超えます。そのすべての者が三条小学校に勤務できる喜びを胸に、子どもたちの一人ひとりを大切にして、教育目標「すこやかできまりのよい子」の具現に向けて取り組んできました。卒業生は、大正11年の裏館小学校・一ノ木戸小学校、同12年の四日町小学校、さらに昭和2年の上林小学校を統合した『三條校』としての時代が長くありますので、確かな数での把握は難しいですが、卒業生数は軽く数万名を数えて、三条はもとより県内、日本各地、世界中にと大活躍をする人材を多く輩出してきました。また、一人ひとりを大切にする中で、特別支援教育が昭和32年に三条小学校で始まり、以来その取組は、県内の中心校として先進的役割を果たし、現在国の進める「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育構築」への動きに繋がっております。

さて、三条小学校を「歴史と伝統のある学校」という言葉と、「太鼓の上手な学校」でしか見れていないと思われる人がありますが、三条小学校の凄さは、保護者・地域と学校とが一体となって、教育活動を全力で推進しているところにこそあります。今、県内の多くの学校で三条小学校を目標とした「地域と共に歩む学校づくり」が行われ、国や市のいうコミュニティー・スクールとは、三条小学校のことです。地域の

皆さんが、常に子どもたちを温かく見守ってくださり、一緒に活動をしてくださるのです。さらに、保護者の皆さんの学校への労を惜しまない支援と協力が、素晴らしいのです。その支えの上に教職員の子どもに寄り添い、子ども同士の関わりを大切に学習活動が展開されています。このような教育環境の中で、思いやりと確かな学力を持つ子どもたちが、笑顔と歌声溢れる学校生活を送ってきたのが三条小学校です。

また来校者から言われる言葉、「床が綺麗ですね。重厚な輝きがしていい学校ですね」は60余年に渡り、子どもたちが「雑巾がけは床を磨いて自分の心を磨く」という気持ちで行ってきた清掃活動の成果です。

そして、創立50周年に作成された校歌は、百年近く歌い継がれてきた素晴らしい校歌です。この校歌は学校行事等で歌われるばかりでなく、ここで学んだ者、ここに勤務した者にとっての心の歌です。卒業生にとっては嬉しい時より辛い時、踏ん張らなければならない時、自分を奮い立たせる自分への応援歌であったに違いありません。校歌は最後に「心はいつも春風に誉の旗をひるがえせ」と歌い上げます。この誉の旗は、校旗とともに自分自身でもあります。これからは三条小学校での学びや生活を胸に、それぞれが自分自身の誉の旗を一層高らかに揚げられるよう、精一杯に次のステージで頑張っていきましょう。

最後に144年の長きに渡り、三条小学校に関わって頂いたすべての皆さんに、衷心より感謝と御礼を申し上げて、私の言葉といたします。長い間、本当にありがとうございました。



◆ お世話になりました。

退職・転出する職員を紹介します。

《退職者》 定年：統括事務主幹：大原泰子
勸奨：教諭：西窪玲子、退職：アシスタント：
浅野裕代、再任用終了：校長：小林 修
《転出者》教頭：後藤正美：上越市立和田小校長
教諭：古澤正雄：長岡市立希望が丘小、養護教諭：
小林房子：見附市立南中、主事：石澤豊：一ノ木戸小、
管理士：山田弘：旭小、アシスタント：小柳明美：
須頃小【卒業式後、退職者を囲んで記念写真を撮る】

黒いカバンとの別れの日を迎えました…皆さんに感謝です

3月25日の朝刊に「教員の人事異動」が発表されました。ご覧になられたでしょうか？有り難いことに保護者の皆さんが熱望された学級担任全員と指導員の三巻先生は裏館小学校への異動となりました。県教委・市教委に感謝です。他の教職員は上述のような退職や転勤になりました。本当にお世話になりました。

さて、私事ですが…、11年前の今日、今年と同じように朝刊に「人事異動」が発表され、私の新任校長も載っていました。この日、私は長年ご指導や励ましを頂いている恩師のお宅に挨拶に伺ったのでした。ここでも恩師から励ましを頂いていると、そこへ恩師の奥様が大きな箱を持ってこられて先生（恩師）に、「ねえ、これ小林先生に使ってもらってはどうか？」と話されたのです。「そうだね。小林さんならぴったりだ」と先生が言われ、箱から出てきたのがカバンでした。「実はね、これは主人が校長になった時、私がプレゼントしたの。でも、主人が使わなかったのよ。良かったら使ってくださいさらない」と頂いたのが、黒い大きなカバンです。このカバンを11年間、毎日使ってきました。仕事の遅い私は多くの仕事関係の文書、会合や会議での資料等をこのカバンに入れて生活をしてきました。11年という、その長さがはっきりしませんが、日数でいうと凄いです。4,000日を越えるのです。この長き日々に渡り、毎日大活躍してくれました。持ち手の部分が擦り切れ、カバンの下部分も擦り切れ、毎日、重い荷物を持ち運んでカバンの形も変形しそうです。ですが、私にはこのカバンは宝物です。このカバンを持つと、「子どもの笑顔のためにやるぞ」とか「頑張らねば…」と気合いが入るのです。そんな気持ちで、今日の「春風式」まで愛用しましたが…、4月からは、このカバンの出番がなくなります。

子どもたちの学ぶ喜びと笑顔のために、地域の皆さん、保護者の皆さんに支えられ、教職員と力を合わせてやってきた私の教育実践が終わりの時を迎えました。三条小学校の閉校で、カバンを置くことになるなんて夢にも思いませんでしたが…、本当に許してください。

今まで、子どもたちの教育（素晴らしい笑顔）のために、皆さんから頂きましたご支援・ご協力に大きな感謝です。そして、私が自分の思いや成果を子どもの姿で綴ってきた「学校だより山鳩」を長い間ご愛読頂きまして、誠にありがとうございました。「三条小学校は最高です。」皆さん、また会いましょう。